

編集委員会委員

中条 潮 CHUJO, Ushio

慶應義塾大学教授

## 560万人

この数字は北海道の人口である。札幌だけで180万人が住む。もっと少ない印象を持っていたのだが、意外と多いと思う。

その北海道で、函館—青森間の新幹線着工式が今年5月に行われ、直後に札幌で講演を頼まれた。

北海道新幹線は、函館—青森間だけで約5,000億円の整備費用を要する。運賃収入では整備費用を到底賄えないが、整備新幹線だからJR北海道は建設費を負担しない。むしろ、経営改善に貢献するとの理由で、民間鉄道会社であるJR北海道が諸手を挙げて賛成する。したがって、地元では誰も反対しない。運営整備分離の弊害の典型である。しかも、道の負担は600億円に過ぎない。

新聞各紙には、「600億円の負担を道はどうするか」といった記事が掲載されていたが、それよりも、他地域の一般納税者の負担のことを考えるべきではないか。また、地元にしても、函館までの新幹線にどの程度の効果があるのか。といて、札幌まで延伸すれば地元の負担は合計4千億近くになる。

そこで、講演では、いつも当研究所の森地所長に「教条的中条主義」と揶揄される私の本領を發揮して、石を投げられる覚悟で「新幹線の建設をただちに中止し、むしろ、航空によるネットワークに重点を移すべきであること、そして、北海道は補助金漬けから脱して独立すべきこと」を率直に話した。

独立して時差を設ければ、観光客は外国にきた気分を味わえるし、アジアで一番早く開く金融市場になるから、金融特区としても有効だろう。

しかしながら、反応は鈍く、反対論も出ない。むしろ、「独立運動が起こるくらいの元気がほしいんですがねえ」と嘆かれておしまい。

このような補助金漬け脱力自治体は北海道にとどまらないだろう。十分な人口があるのだから潜在力は大きいのに、自立しようとしなない。

## 29万人

札幌での講演のあと、レジ袋税の調査でアイスランドとエール（アイルランド共和国）に出張した。560万人もの人が住んでいるのに、国にぶらさがりっぱなしの北海道に対し、エールの人口は390万人。そして、アイスランドに至ってはたった29万人。

両国とも旺盛な独立意識に支えられてきた。アイスランドは、英国議会よりもずっと前の10世紀に、アルシングと呼ばれる世界初の民主制議会が設置された国である。ノルウェイやデンマークの支配を受けた時期には、粘り強く独立運動を戦ってきたし、17/18世紀には激しい火山活動ゆえにデンマーク王が移住を命

令したが、そのときも、故国を離れず生きていく道を選んだ。国全体が火山と氷河の上にあるといってもよい貧弱な土地にもかかわらず、ヴァイキング伝統の不屈の意識に支えられて酪農と漁業を発展させ、いまや、世界第7位の一人当たり国民所得を達成した。

エールの独立精神もまた、人を惹きつけてやまない。ジャガイモしかできない貧しい土地であるにもかかわらず、常に、ケルトの伝統を守って何代にもわたって英国に対する抵抗運動を続け、ついに独立を勝ち取った歴史と、それを支えてきた独立運動の戦士たちの物語は、私の胸に大きな感動をもたらした。

付言すれば、航空時代になって、中継地を自国とすることによる低運賃三国間輸送に最初に躍り出たのも、アイスランドエアとエアリングスであった（アイスランドエアのHPには、「世界初の格安航空会社」と記されている）。今回の出張の目的であったレジ袋有料化については別の機会に譲るが、この二つの国は、レジ袋税（エール）あるいはレジ袋基金（アイスランド）という制度を世界に先駆けて取り入れた国でもある。エールはダブリンに大胆な金融特区制度を導入して経済活性化に成功したし、アイスランドはゴルバチョフとレーガンの世紀の会談を成立させた。両国とも、資源が無いなりに最大限の知恵を働かせて努力してきたのである。

いや、この2国に限らない。世界には、北海道や沖縄より人口が少ないのに、立派に自立して高い経済水準を維持している国がいくらかもある。ルクセンブルクも人口45万人だが、世界の金融ビジネスの中心地のひとつであり、世界一の国民所得を誇っている。ノルウェイ、デンマーク、フィンランドも、北海道より人口は少ないが一人当たり国民所得は高い。

無論、独立は簡単なことではない。当然コストもかかる。アイルランドの抵抗の歴史はIRAというテロ集団を生むことになったし、アイスランドの物価は目が飛び出るほど高い。両国とも、他国に従属して補助金漬けになっていた方が楽だったろう。それでもなお、独立を選んだのである。

今こそ、榎本武揚の発想に戻る時ではないだろうか。

追伸：

アイスランドへは、日本からの定期直行便はないが、時々、チャーター便が運航されている。また、ロンドンなど北部欧州都市からレイキャビクまで往復6万円の格安運賃があり、日本でも予約ができる。アイスランドからはグリーンランドへの手軽な日帰りツアー（5万円弱）もあるので、欧州出張の際には是非足を伸ばしてみられたい。ただし、夏でも冬支度をお忘れなく。